

中期経営計画 ～2010年度に向けて～

株式会社 **フジクラ**

取締役社長 大橋 一彦

2008年6月3日

内 容

中期経営計画

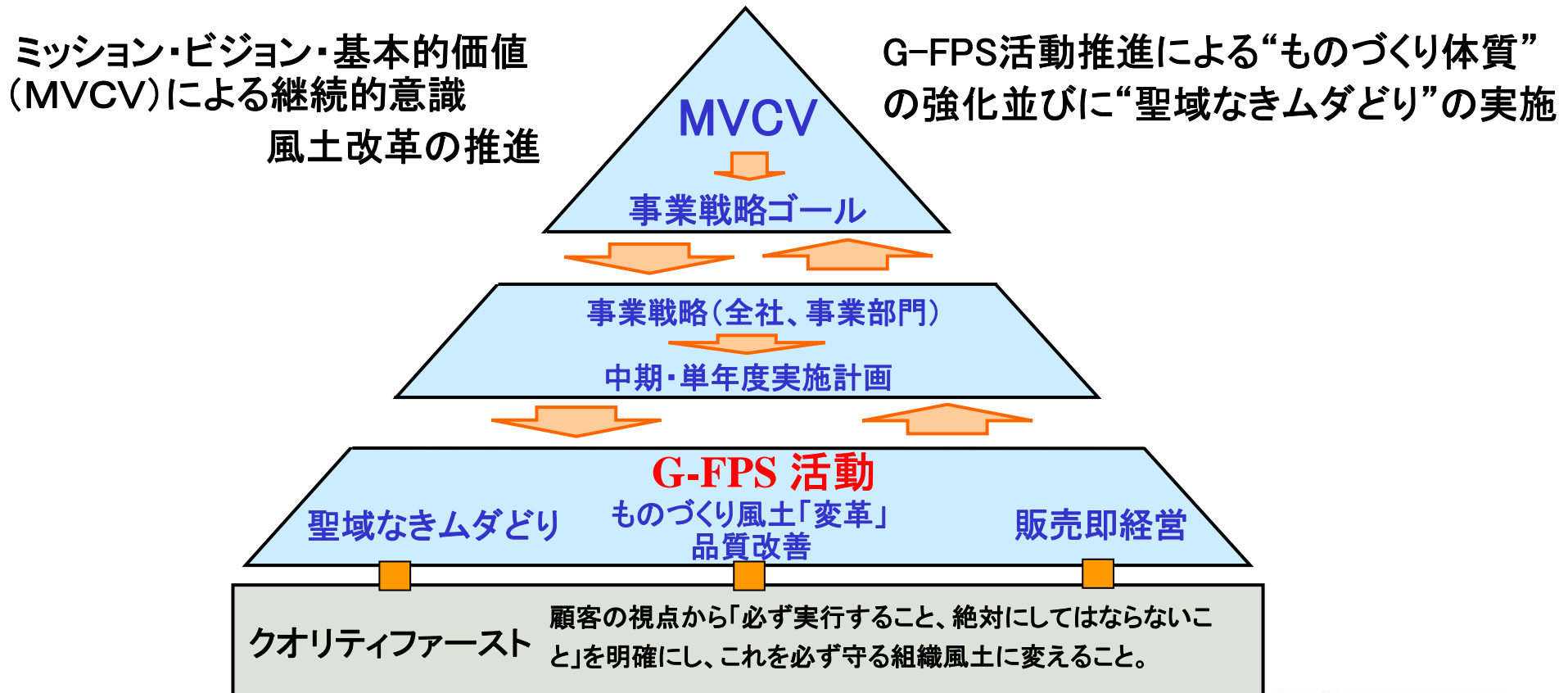
～2010年度に向けて～

- 中期経営方針
- 2010年度修正数値目標
- 各事業戦略
 - － 各事業戦略
 - － 設備投資計画
 - － 研究開発
- 株主還元策

注記：本資料は2008～10年度におけるフジクラの経営方針（意思）をまとめています。08年度を含む先の年度の売上・利益等については、直近状況を折り込んだ市場判断、投入に関するフジクラの意思を定量化していますが、将来時点で事業環境の変化等により変わることがあります。

中期経営方針(Ⅰ)

■ 顧客価値創造型事業の展開 “お客様に商品でなく価値をお届けする”



中期経営方針(Ⅱ)

■ 顧客価値創造型事業の展開 “お客様に商品でなく価値をお届けする”

情報通信部門

北米・アジア等海外でのFTTx伸展に合わせ事業を拡大し、非通信分野での事業開拓も進める

電子電装部門

ワンストップソリューション提供による差別化・競争力強化により収益率を高め、継続拡大

ケーブル・機器関連部門

海外における拡大とさらなる採算改善に注力

研究開発部門

拡充強化と人材育成

中期経営計画修正の背景

- 米国経済の減速等、急激な事業環境変化に伴い、2010年度目標を見直し

全社的要因

[資源高]

- 原油高騰及び関連樹脂材料等の高騰
- 金属材料の高騰

[為替]

- 円高、ドル安進行
- パーツ・元等、途上国通貨高の進行

事業セグメント毎個別要因

[情報通信]

[円高]

- 円高・ドル安の影響を受け、光ファイバ、光機器製品の採算悪化

[電子電装]

[事業環境]

- 事業環境変化に伴う売上減
- 材料高騰に伴う採算悪化(金メッキ液等)
- タイ等の生産国通貨高に伴うコスト増

[ケーブル機器関連]

[売上増]

- 銅価上昇による売上増

2010年度修正数値目標

■ 持続的成長を維持し、2010年度中期事業目標を必達する

(単位:億円)

	'07実績	'08計画	'09計画	'10目標(修正)	'10目標(当初)
売上高	6,594	7,000	7,600	8,400	8,500
営業利益	203	220	385	590	680
営業利益率(%)	3.1	3.1	5.1	7.0	8.0
ROE(%)	1.9	4.5	8.3	11.0以上	11.0以上
ROIC(%)	1.2	2.6	4.8	9.0以上	9.0以上
総資産回転率(回転)	1.2	1.3	1.3	1.3以上	1.3以上

2010年度修正数値目標 セグメント別

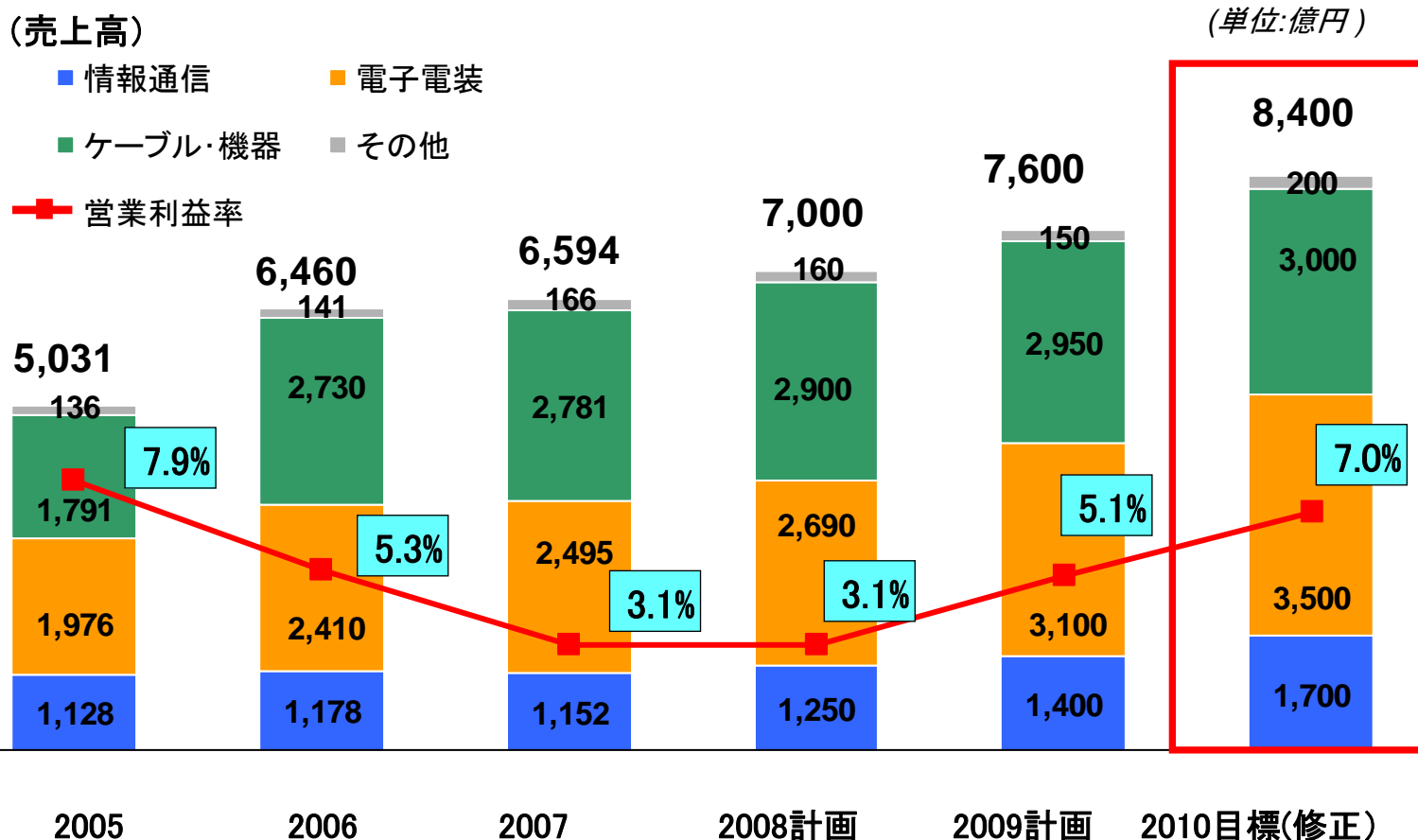
■ 事業環境の変化により電子電装部門の売上高・利益目標を下方修正

(単位:億円)

		2007年度 実績	2010年度目標			
			修正目標	当初目標	増減	
売上高	情報通信	1,152	1,700	1,600	100	
	電子電装	2,495	3,500	4,000	▲ 500	
		<i>FPC</i>	<i>946</i>	<i>1,250</i>	<i>1,500</i>	▲ 250
		<i>コネクタ</i>	<i>331</i>	<i>450</i>	<i>600</i>	▲ 150
		<i>自動車関連</i>	<i>651</i>	<i>900</i>	<i>800</i>	100
		<i>その他</i>	<i>567</i>	<i>900</i>	<i>1,100</i>	▲ 200
		ケーブル・機器関連	2,781	3,000	2,700	300
		その他	166	200	200	0
	全社 計	6,594	8,400	8,500	▲ 100	
営業利益	情報通信	111	170	180	▲ 10	
	電子電装	▲ 19	245	350	▲ 105	
	ケーブル・機器関連	75	115	100	15	
	その他	36	60	50	10	
	全社 計	203	590	680	▲ 90	

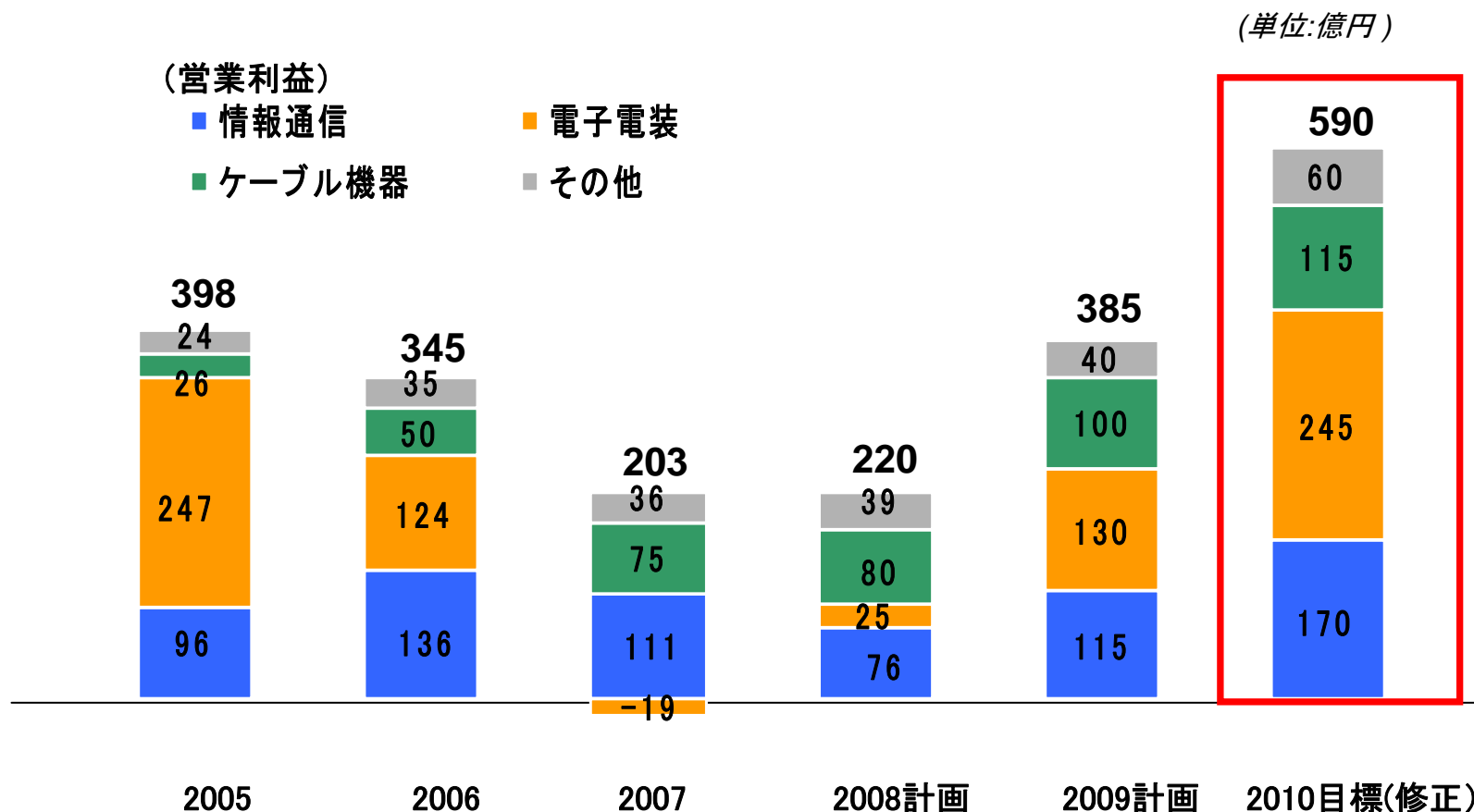
2010年度修正数値目標 全社売上高/営業利益率

■ 電子電装部門の改善を軸に、2008年度以降収益率を回復



2010年度修正数値目標 セグメント別営業利益

■ “選択と集中”及び“ものづくり力”の強化によりV字回復を目指す



各事業戦略

情報通信セグメント

■ 北米・アジア等海外でのFTTx伸展に合わせ事業を拡大し、非通信分野での事業開拓も進める

(売上高)

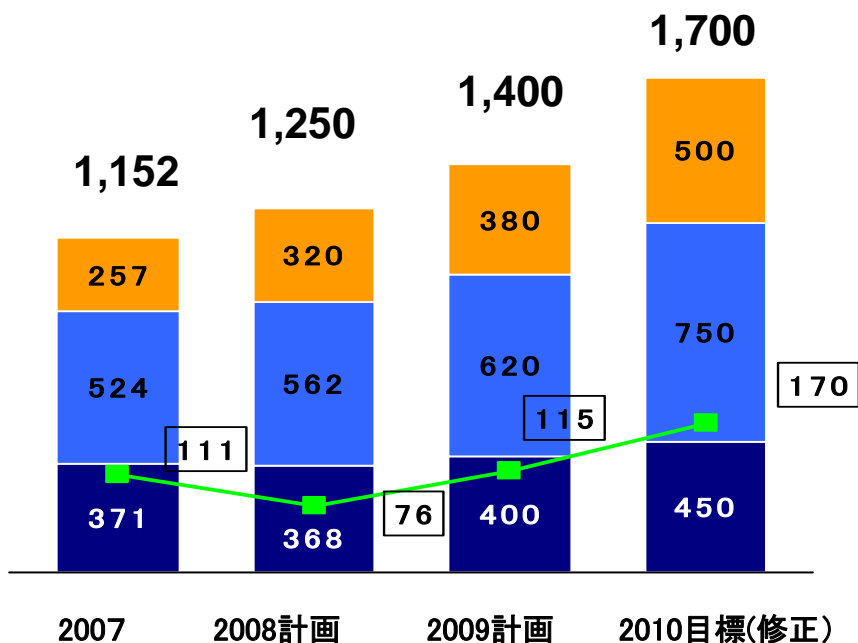
(単位:億円)

■ 光ケーブル

■ 光機器部品

■ エンジニアリング

■ 営業利益



エンジニアリング

- 海外: 米国AFLエンジニアリング事業拡大
- 国内: WiMAX事業の開発・拡大

光機器部品

- FTTH拡大に対応した関係製品の拡販
- NGN対応システム機器の拡販
- 非通信分野での事業開発・拡大 (ファイバーレーザー、医療分野、車載用センサ、イルミパネル)

光ケーブル

- 光素線の世界トップレベルのコスト競争力を武器にグローバルで拡販し、海外マーケット(中国、ロシア、欧州、中近東)での優位性構築
- 光ケーブルの海外製造拠点を拡充

各事業戦略

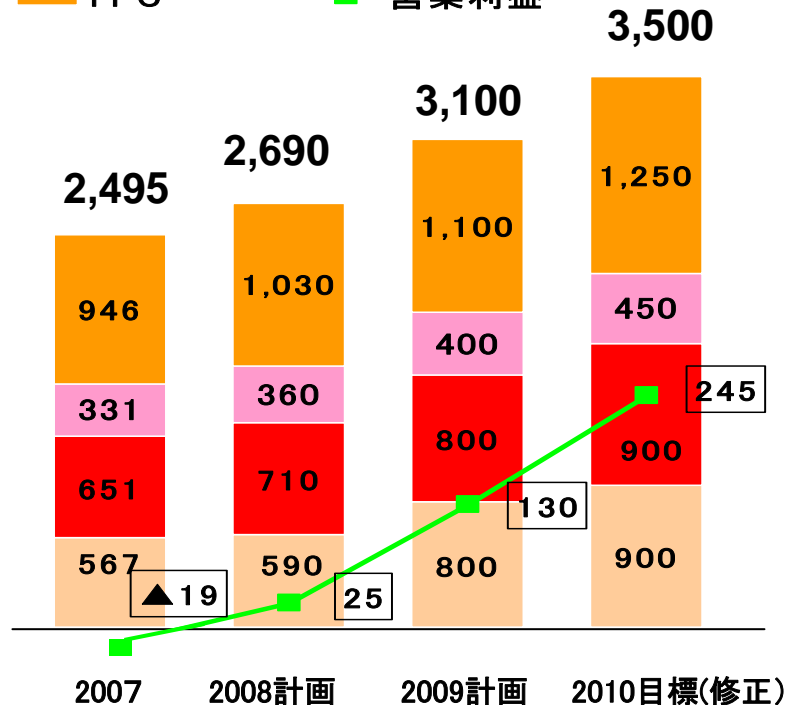
電子電装セグメント(電子)

■ ワンストップソリューション提供による差別化、並びに“ものづくり力”強化により収益率を高め、継続拡大

(電子電装全体売上高)

(単位:億円)

■ その他 ■ 自動車 ■ コネクタ
■ FPC ■ 営業利益

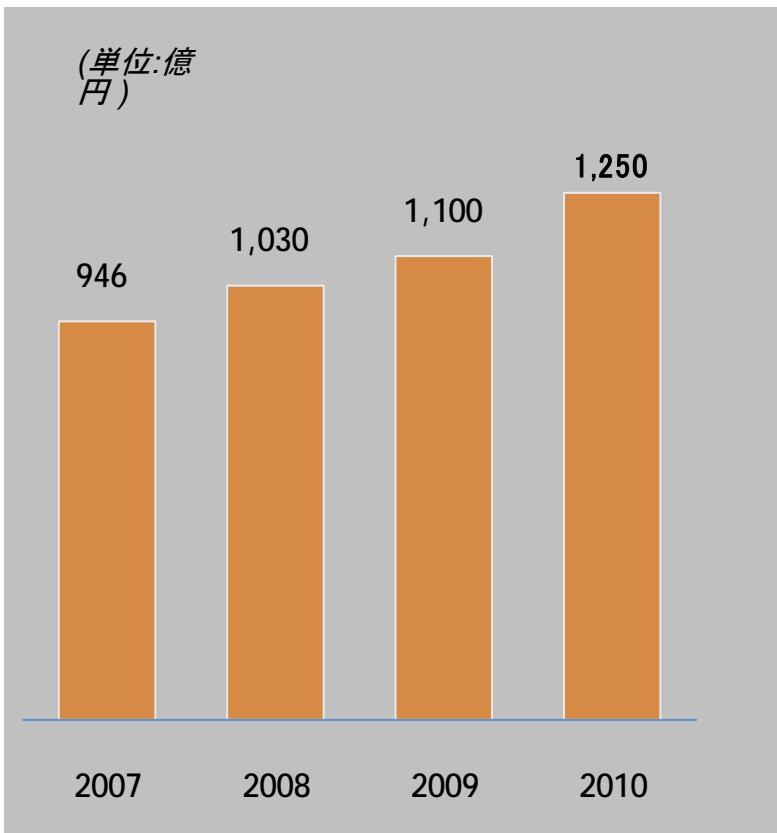


- FPC**
 - FPCは高機能品種及び携帯市場を中心に採算を改善し継続拡大
- コネクタ**
 - 携帯機器、車載機器市場に拡販
 - 極小、極薄型用コネクタ分野へリソース投入
- その他**
 - HDD用部品
 - 今後も10~15%の市場成長を見込む
 - MBSW
 - 携帯機器、車載市場へ積極参入
 - 極細同軸
 - 2010年度以降、携帯機器市場に需要拡大
 - サーマル
 - PC、車載分野での需要拡大

FPCの採算改善の取り組み

■ 携帯電話、携帯機器デバイス向FPC生産能力アップ

FPCの売上高推移



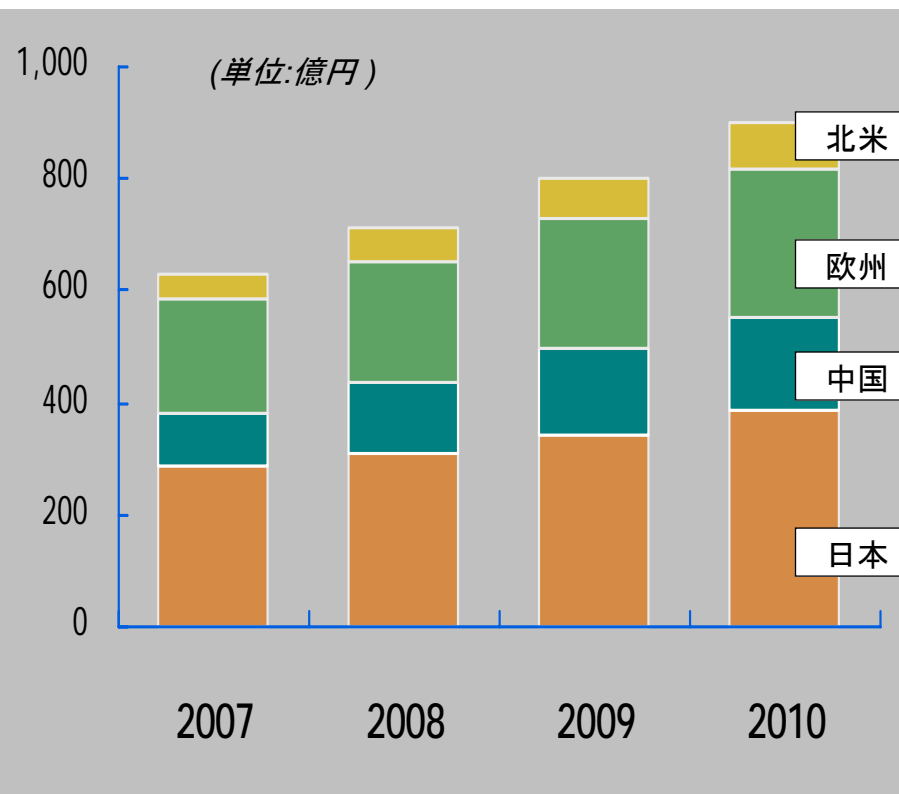
- ・ 07年度採算悪化の要因
 - 多層品及びファイン品の増加による製造の混乱
- ・ 市場認識
 - FPC需要は、携帯機器を中心に継続拡大する
 - 顧客の寡占化に伴い、受注件名は大型化し、納期対応、品質対応要求ますます厳しくなる。
 - 多層、ファイン回路等の高機能品対応要求が高まる
- ・ 今後の戦略・体制
 - 生産体制の見直し、再構築
 - 自動化・半自動化
 - 多層・ファインFPC製造能力の拡大
 - 実装デバイス製品の拡大増強

各事業戦略

電子電装セグメント(自動車電装)

■ 世界4極体制での事業拡大と共に、電子融合商品の拡販を進める

自動車電装の地域別売上高推移



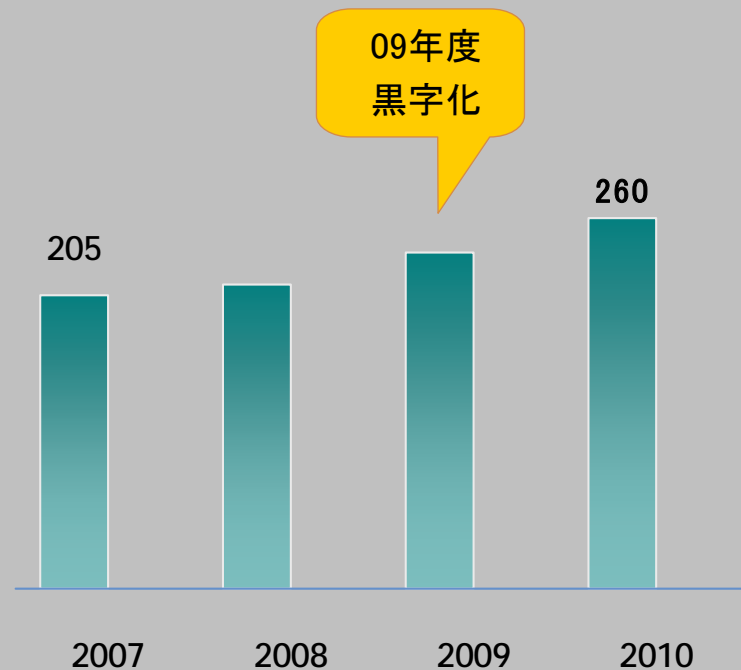
- ・ ACE社へのリソース継続投入による早急な採算改善(09年度黒字化)
- ・ 世界四極(北米、欧州、中国、日本)でのハーネス・電子融合商品の拡販
 - 海外生産比率拡大
 - 欧州・北米拡販(ACEシナジー効果創出)
 - 中国マーケットでのシェア拡大
 - グローバル品証体制の構築
- ・ 顧客との共創による新商品の開発
- ・ 海外新生産拠点の立ち上げ
 - アジア・東欧・北アフリカの新製造拠点の立ち上げ

ACE社の採算改善の取り組み

■ ACE社へのリソース継続投入により、09年度黒字化を目指す

ACE社の売上高の推移

(単位:億円)

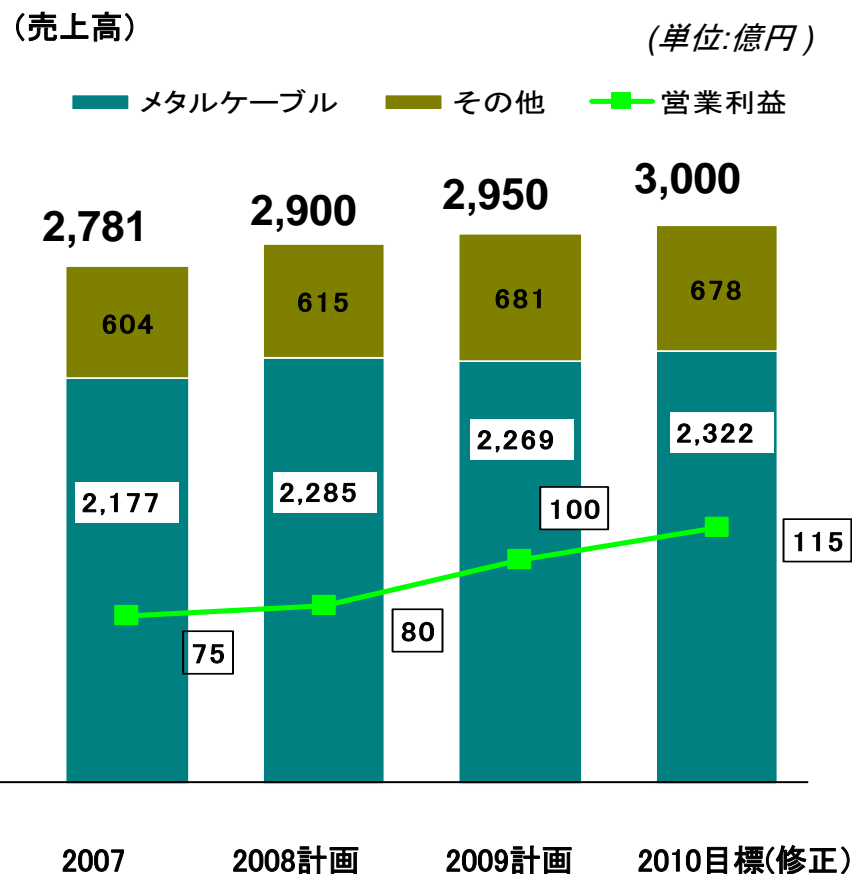


- ・ ACE社の赤字拡大の要因
 - － メキシコ工場の立ち上げでの混乱
 - － 欧州製造拠点のルーマニアへの移転の混乱
 - － スペイン生産体制最適化の遅れ
- ・ 市場認識
 - － VWグループの生産台数は今後増加
 - － 車載用電子部品の拡大
- ・ 今後の戦略・体制
 - － 完全子会社化と新執行体制
 - － ルーマニア、メキシコ工場の生産の安定化
 - － スペイン生産体制の最適化
 - － VWグループへの継続積極拡販
 - － 欧州市場への電子融合商品の拡販

各事業戦略

ケーブル・機器関連セグメント

■ さらなる採算改善と海外マーケットでの拡販



メタルケーブル

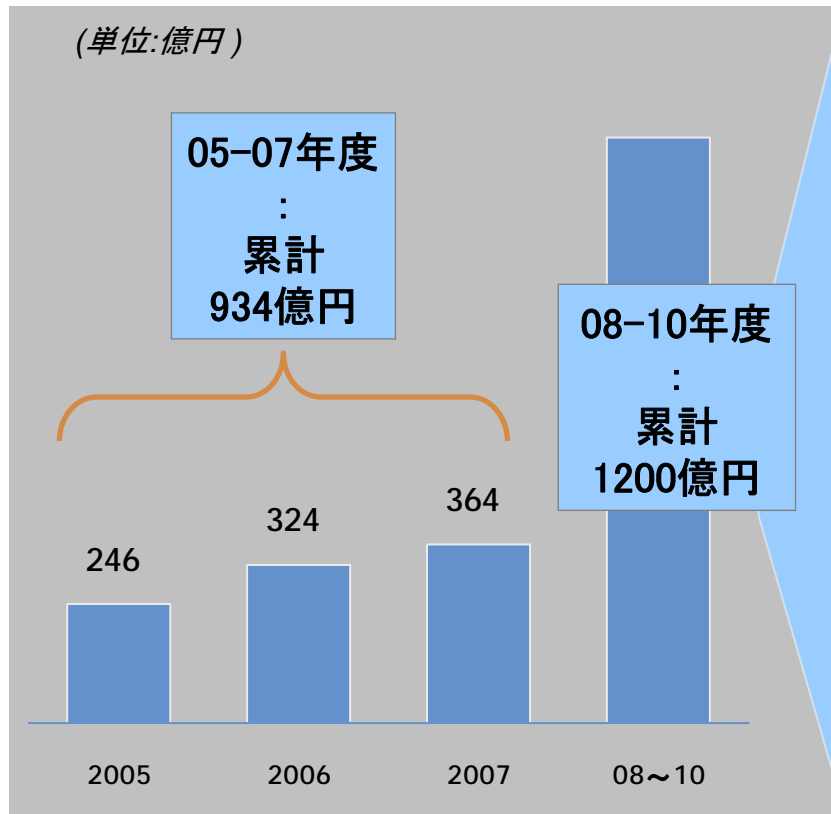
- 産業用電線の建設用品種拡大
 - 国内は成熟かつ、安定した事業
 - コスト競争力のアップ
- 海外マーケットに軸足を
 - 海外需要旺盛、海外拠点を活用した拡販活動
 - ビスキャスとの協業による拡販
(V社 2008年度売上1,000億円目指す)
 - 北米マーケットでのAFL事業の拡大
- ニッチな新商品の開発
 - CA導体、風力発電用ケーブル等
- 通信メタルケーブルの拡販

各事業戦略

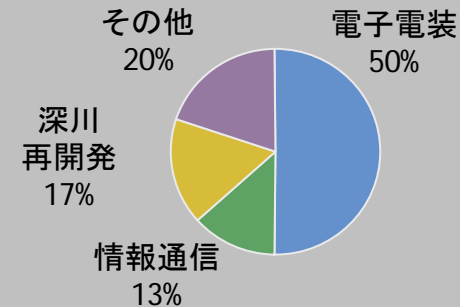
2008～2010年度の設備投資計画

■ 引き続き、電子電装を主体とした成長分野に投資継続

設備投資推移



2008年度400億円の内訳



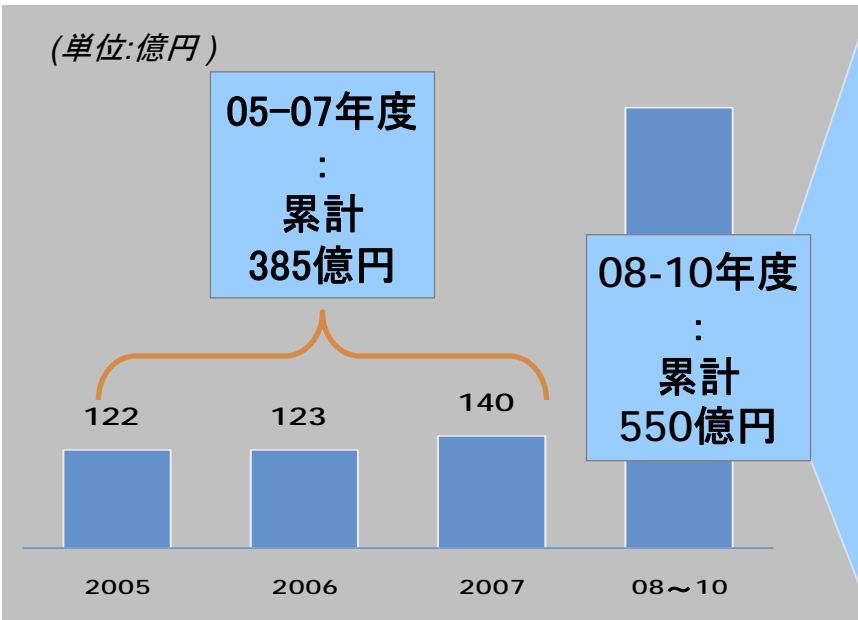
今後の主な設備投資計画

- ・ 電子電装を主体とした成長分野
- ・ 光ファイバ競争力強化
- ・ 新規事業開発投資
 - ・ 光ファイバの非通信応用商品
 - ・ 光電子融合デバイス商品
- ・ 深川再開発

各事業戦略 研究開発

■ 光/無線と電子の融合技術領域を拡大

研究開発費推移



Fujikura R&D Center Thailand (FRDT)
タイに新しい研究開発センターを国立研究機関が集まるタイ・サイエンスパーク内に、2008年4月に設立しました。

今後の主な研究開発領域

商品開発

情報通信分野

- 次世代ネットワーク技術
- FTTx技術
- 光インターコネクション技術
- フォトニクス技術
- メディケア応用技術

電子電装分野

- 精密配線技術
- 多層配線技術
- 精密コネクタ技術
- メンブレンセンサ技術
- スイッチモジュール技術
- サーマル技術
- 導光照明技術

新事業開発

- シリコン貫通配線技術
- ファイバーレーザー技術
- 色素増感太陽電池技術
- 高温超電導技術

株主還元策

■ 配当性向30%を継続

配当の実績について

- 株主還元方針
 - 配当性向 目標 30%
(自己株消却含む)
- 配当実績
 - 2007年度 10円/株
- 自己株買い実績
 - 2006年度 5,550千株 49.3億円(消却済)
 - 2007年度 9,549千株 60.0億円(消却済)

